

登録コード	UAA03500	開講年度	2026					
授業題目	歴史学論				担当教員	山本 英二		
					副担当	豊岡 康史・佐藤 真紀・新津 健一郎・塩原 佳典		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5 時限			
				授業形態	講義			
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】			
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学							
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				歴史学研究に必要な知識と技能を獲得し、歴史学的思考ができるようになる。			
(2)授業の概要	歴史学の諸分野の研究状況について受講者に幅広い知識を持たせ、同時に受講者はこれまでの研究成果を批判的に摂取して、現在の歴史学研究全体を俯瞰し、そのなかに受講者みずからの研究テーマを位置づけ、その上で深く掘り下げる能力を養う。							
(3)授業計画	第1回 オリエンテーション 歴史学研究の構造と授業の進め方（担当：山本・新津・豊岡・佐藤） 第2回 テキスト講読：日本前近代史研究と国家（担当：山本） 第3回 テキスト講読：日本前近代史研究と社会（担当：山本） 第4回 テキスト講読：日本前近代史研究と地域（担当：山本） 第5回 テキスト講読：東洋前近代史研究と国家（担当：新津） 第6回 テキスト講読：東洋前近代史研究と社会（担当：新津） 第7回 テキスト講読：東洋前近代史研究と地域（担当：新津） 第8回 テキスト講読：東洋近現代史研究と国家（担当：豊岡） 第9回 テキスト講読：東洋近現代史研究と社会（担当：豊岡） 第10回 テキスト講読：東洋近現代史研究と地域（担当：豊岡） 第11回 テキスト講読：西洋史研究と国家（担当：佐藤） 第12回 テキスト講読：西洋史研究と社会（担当：佐藤） 第13回 テキスト講読：西洋史研究と地域（担当：佐藤） 第14回 各受講生による総括的プレゼンテーション（担当：山本・豊岡・佐藤） 第15回 まとめ（担当：山本・豊岡・佐藤） 定期試験：おこなわない							
(4)成績評価の方法	e-alpsの課題（50％）、授業態度（50％）の総合評価 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。							
(5)成績評価の基準	【卓越している＝秀】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある＝優】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある＝良】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある＝可】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。							
(6)事前事後学習の内容	事前にe-Alpsで配布するプリントを予習すること。 事後には、e-Alpsへの授業内容に関する課題を提出すること。 指示される参考文献により知識の確認をすること。							
(7)履修上の注意	事前に十分に予習をして授業に臨むこと。							
(8)質問,相談への対応	オフィスアワー【水曜日12:10～13:00】							
【教科書】	各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。							
【参考書】	佐藤卓己『ヒューマニティーズ歴史学』（岩波書店、2009年）							